



「宿場町に息づく記憶と未来」

- 台ヶ原の和菓子文化がつなぐ空間のあり方 -

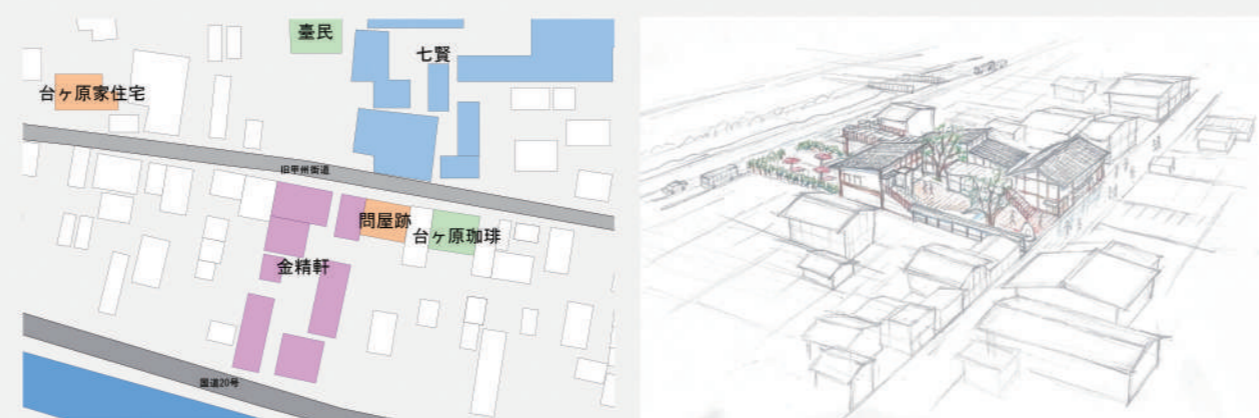
1. 滞在を生み出す場の和菓子店再構築

山梨県に根づく和菓子店「金精軒」
山梨県北杜市台ヶ原に構える既存店舗である「金精軒」は物販を中心に構成されており、訪れた人々がゆっくりと過ごせる飲食スペースが不足している。
そのため、この地域の魅力を“購入するだけ”で終わってしまう状況が生まれていた。
本計画では、歴史的街並みに寄り添う空間の中で、**滞在できる場を新たに設ける**ことで、訪れる人々の体験を豊かにし、街に継続的にぎわいを生み出すことを目指す。
単なる物販機能にとどまらず、地域と人をつなぎ、深く関わりを育む拠点として「金精軒」を再構築する計画である。



2. 山麓に開けた歴史の街道町「台ヶ原」

山梨県北杜市にある白州町台ヶ原
甲州街道の江戸・日本橋から数えて40番目の宿場であり、現在も当時の旅籠や商家の面影がしのばれる街並みが残されており、「日本の道100選」のひとつにも選ばれている。
計画敷地周辺環境について
昭和から平成にかけては和菓子店や酒蔵、手仕事の店などが点在し、観光地化と生活空間が混在している。



3. 宿場町の景観を支える和菓子屋「金精軒」

建築年（店舗）：1852年（江戸時代後期）
建築用途：宿泊施設（旅籠）
敷地面積：1702.471 m²

甲府市太田町の「金精軒」より暖簾わけを経て、台ヶ原の地に菓子店を開業したのは明治37年(1904年)。中でも有名なのは信玄餅であり、金精軒が商標登録をしている和菓子である。
店舗外観建物は1852年頃に建てられたとする「まるや」という旅籠。



4. 「和菓子の記憶と繋ぐ空間」

空間コンセプトを「和菓子の記憶と繋ぐ空間」と題し、細長い宿場町の敷地形状を活かし、空間がなめらかに展開していく。
過去を知り、現在を味わい、未来へ繋ぐ場として和菓子文化が静かに人を繋ぎ続ける。

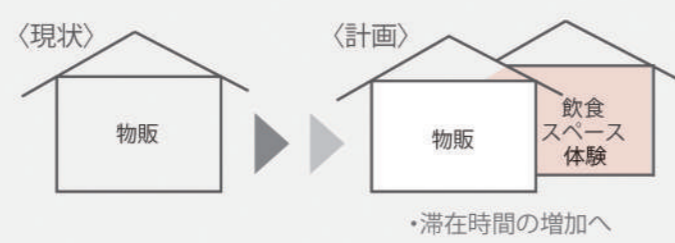
● 細長い敷地を活かした「たまり場」空間

店舗外観を残しつつ内部を新たに新設する工場に空間が繋がるようにリノベーションする。店舗、工場、カフェとなめらかに空間を展開し、繋がる空間に「たまり場」をつくることで、訪れた人の滞在を促すと共にリピーターを増やす。

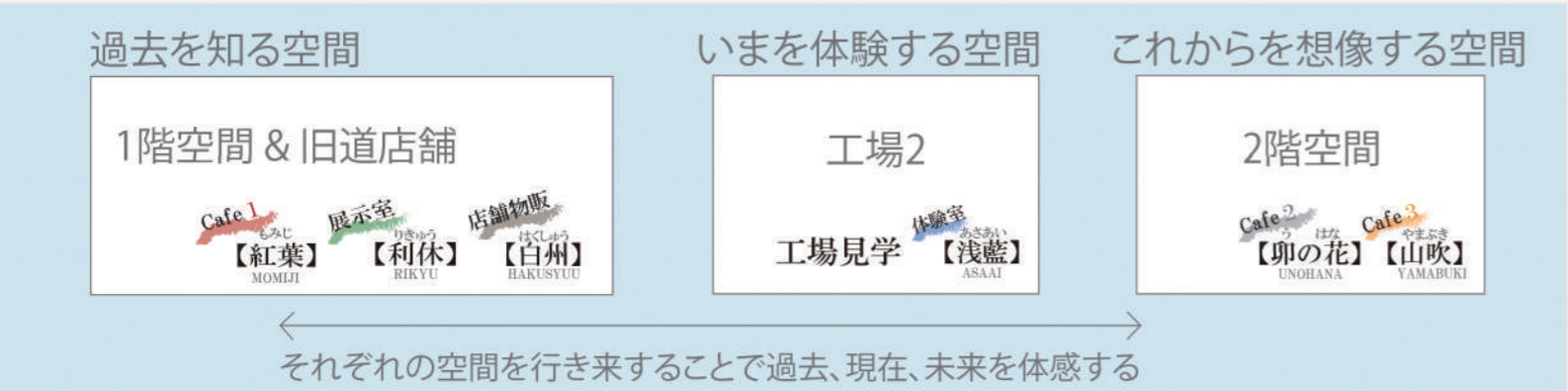
また、隣り合う空間の存在などがわかるように通り抜けができるようにしたり、ガラス張りにすることで開放的で快適な空間に。

● 物販中心から「滞在のできる場所」へ

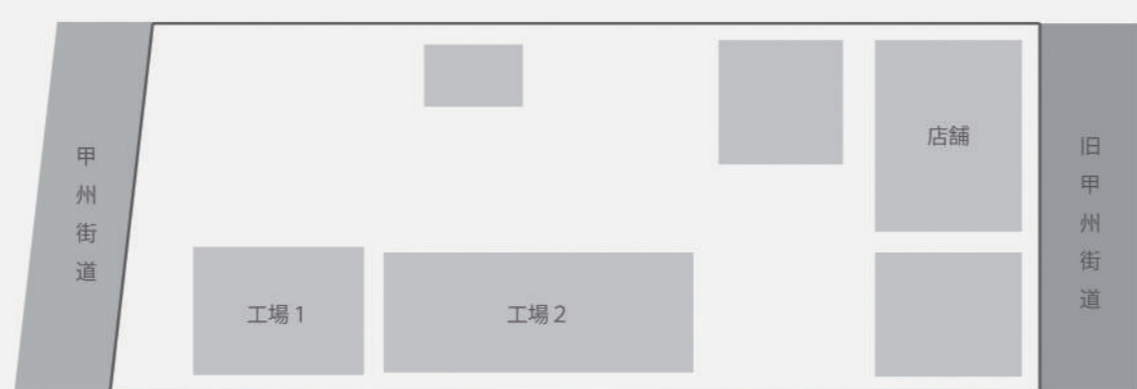
既存店舗の物販のみの機能から、飲食、体験機能の追加をすることで、訪問者の滞在時間増加を促す。



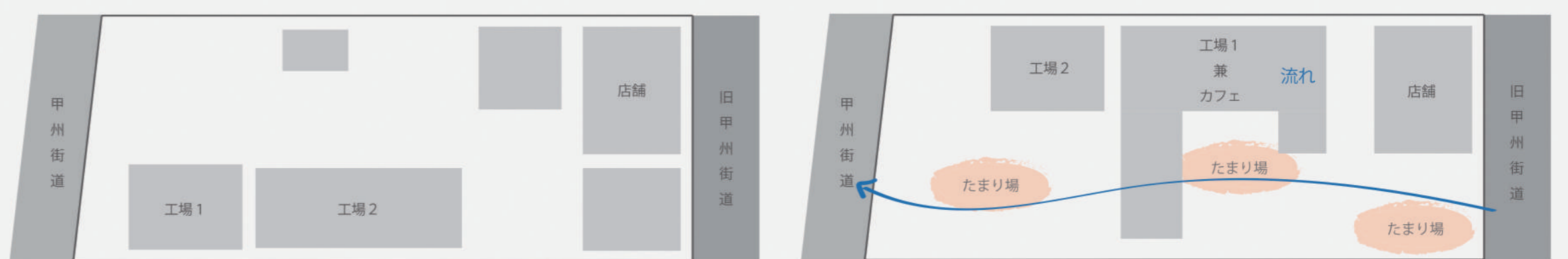
● 過去、現在、未来を繋ぐ空間



〈現状〉



〈計画〉



断面図

